

式 辞

皆さん、本日はご卒業誠におめでとうございます。そして、これまであたたかく見守り、支えてこられたご父母・保護者・ご家族の皆さまに、心よりお祝い申し上げます。

本日は、キャンパス間、学部・学科の教室間をオンラインで結ぶ形での全体式典ではありますが、卒業生の皆さんを祝福できることができ、大変嬉しく思っています。来賓の皆様、ご父母・保護者・ご家族の皆様、在学生の皆さんには、会場への参加はご遠慮いただき、インターネット配信を通じてこの式典をご覧いただいています。このような開催方法となりましたことにご理解・ご協力をいただきました関係の皆さまにこの場を借りて感謝申し上げます。

昨年の3月頃より現在に至るまで新型コロナウイルス感染症の蔓延が続いていることにより、皆さんは大変困難の多い1年間を過ごされました。キャンパスに通うことが制限され、パソコンやスマホを通じてオンライン授業を受けることは初めての経験であり、戸惑うことや苦勞することが多々あったと思います。感染防止に努めながらの実習、資格取得に向けた試験勉強においても、不安や孤独な闘いを強いられました。通信課程の大学院・学部で学ばれた皆さんは、コロナ禍におけるエッセンシャルワーカーとしてのお仕事と学業・研究との両立に大変な苦勞があったことと思います。そのような中でも、日々努力を積み重ね前向きに取り組まれたことにより、本日無事学位記授与を受けられたことは、賞賛に値すると思います。

学生生活においては、講義や演習・ゼミを通じて専門的な知識や技術を修得することは第一義的に重要ですが、それとともに、キャンパスに集い学友や教職員と交流することやサークル活動を通じてさまざまな経験を深めることも、とても重要なことに違いありません。しかし、コロナ禍によりこの1年間はその機会がほとんど持てなかったことは、学生の皆さんにとっても、私たち教職員にとっても痛恨の極みでした。

昨年4月に、本学の新型コロナ対応の基本方針として、学生および教職員の命と健康を守ることを最優先にした上で、学生・院生の皆さんの学びの継続を保障することを掲げました。そして、学生・院生の皆さんには、日常生活における感染防止に取り組んでもらうよう折に触れて呼びかけてきました。幸いにも今日まで、本学キャンパスにおいて感染者のクラスター発生に至らなかったのは、皆さん一人ひとりが意識を高くもって行動してく

れたお蔭であると思っています。

大変な困難を乗り越えて本日ご卒業される皆さんに、祝福の気持ちを込めて、はなむけの言葉を贈りたいと思います。

皆さんに伝えたいのは、このコロナ禍において経験したこと、自分なりに考え行動したことを社会に出てからの活動に活かして欲しいということです。今起こっている、世界的な新型コロナウイルス感染症の終息にはまだまだ時間がかかるとともに、今後新たな感染症蔓延が生じることも十分考えられます。また、大地震や豪雨災害などがいつ発生してもおかしくない状況にあります。私たちの命や暮らしを脅かす非常事態が発生した際に、地域において不安や困難を抱える人々に寄り添い支えることができる人が求められています。非常事態だけではなく日常においても、孤立し生活困難を抱える人たちなど、人々の生活を脅かす多くの問題が生じており、地域で人と人が共に支え合う地域共生社会づくりを担う人が求められています。

皆さんが、このコロナ禍というこれまでに経験したことがない事態に遭遇する中でも、オンライン授業等に柔軟に対応し、研究論文をまとめることや資格等の取得を目指して取り組んだ経験は、卒業後の職場や生活する地域において、臨機応変かつ創造的に人々を支える活動に活かすことができると思います。この1年間は辛く困難な経験であったかもしれませんが、それを乗り越えることができた自分に自信と誇りを持ち、苦難を抱える人たちを支える存在になって欲しいと思います。これは、本学を創設した鈴木修学先生が建学の精神に掲げられた「この悩める時代の苦難に身をもってあたり、大慈悲心・大友愛心を身に負うて、社会の革新と進歩のために挺身する人をこの大学を中心に輩出させたい」という理念を皆さんが具現化することに繋がると思います。

卒業される皆さんの中には、本学在学中に地域と連携した学びに積極的に取り組み、本日学位記と合わせて「ふくし・マイスター」の称号を授与された方が多くいます。「ふくし・マイスター」とは、自分が居住や仕事をしている身近な地域に自ら積極的に関わり、ボランティア精神とリーダーシップを発揮して地域の課題解決に身をもって当たることができる力を有した人であることを、大学が認定するものです。「ふくし・マイスター」の認定に至らなかった皆さんも、多かれ少なかれキャンパス周辺の地域や大学が連携する地域においてフィールドワークを行い、住民、事業者・NPOや自治体等の方々を通じて実践的な学びをさせていただいたと思います。「ふくし・マイスター」に認定されたことや実践的な学びをした経験は、先ほど述べた、卒業後に職場や居住する地域で人々を支える活動を担う上での自信に繋がると思います。

もう一つ皆さんに伝えたいのは、国連が2030年までに世界で達成することを目指して定めた、持続可能な開発目標 SDGsについてです。誰一人として取り残さない社会を目指すとした 17 の目標の中には、「貧困をなくそう」、「すべての人に健康と福祉を」、「質の高い教育をみんなに」、「ジェンダー平等を実現しよう」、「働きがいも経済成長も」、「住み続けられるまちづくりを」、「緑の豊かさを守ろう」など、皆さんが各学部・学科で学んだ内容と密接に関係した取り組み課題が多く含まれています。国内外の多くの企業・団体や自治体が、SDGsの達成に資する活動を推進していますので、卒業される皆さんも、本学での学びを活かして積極的に取り組んで欲しいと思います。

おわりになりますが、本日までご卒業される皆さんが今後それぞれの道で、日本福祉大学で身に着けた力を存分に発揮することにより、すべての人が“ふつうのくらしのしあわせ”を実現できるよう貢献されることを期待し、私のお祝いの言葉と致します。

あらためまして、本日はご卒業おめでとうございます。

2021年3月20日

日本福祉大学 学長 児玉 善郎